

## 報道関係者各位

### PillCam® ESO、刑務所内の肝硬変患者に対する医療費を90%削減することを研究が証明 — 食道静脈瘤の現場検査ツールによってリスクを最小化 —

イスラエル ヨクナム、2008年10月6日：ギブン・イメージング社(NASDAQ: GIVN)は本日、受刑中の肝硬変患者の食道静脈瘤を刑務所内で評価するパイロットスタディにおいてギブン・イメージング社の食道用カプセル「PillCam® ESO」による内視鏡検査が、刑務所内の医療費を大幅に削減させることが実証されたことを発表しました。この研究結果は、フロリダ州オーランドで2008年10月3日-8日に開かれた米国消化器病学会(ACG)2008年次総会のポスターセッションⅡ(抄録番号 P648)で発表されました。

米国医師会認定の医療デリバリー・サービスが実施された最初の刑務所であるジョージア州矯正局で行われたパイロットスタディでは、肝硬変を患っている5人の受刑者の静脈瘤検査にPillCam® ESOが使用され、うち2人に静脈瘤が確認されました。どの程度医療費が節約できたかは、PillCam® ESOカプセル内視鏡と撮像されたビデオ画像の遠隔読影にかかる費用を、食道胃十二指腸内視鏡検査(EGDまたは上部消化管内視鏡検査)を行える施設への受刑者移送にかかる概算費用とEGDの標準料金と比較して計算しました。

ジョージア医科大学消化器病科科長であるロバート・シャーデ教授次のように述べています。「PillCam® ESOを使用し、受刑者の静脈瘤検査を刑務所で行えば、大幅なコストの節約が可能となります。なぜなら、熟練した看護師が現場で静脈瘤検査を行い、医師は別の場所で結果を解析することができるからです。」

研究論文の共同執筆者であるイリナ・ヘプバーン医師はまた次のように述べています。「遠隔読影を組み合わせたこの検査方法は、患者が専門医によるケアを思うように受けられない人里離れた場所や郊外において、消化管疾患の専門医による読影を提供する有益なツールとなるでしょう。」

ギブン・イメージング社のマーケティング最高責任者イスラエル・ラズは次のように述べています。「PillCam® ESO 2は、EGDを行う施設に患者を移送する費用及びEGD自体の標準料金と比較した場合、およそ90%の経費を削減することができます。これは、刑務所内の患者一人当たりの医療費4,200ドルに相当します。また同様に重要なことは、カプセル内視鏡検査を実施することにより、受刑者を移送する必要性がなくなり、矯正局職員と一般市民の安全が改善されることです。」

食道静脈瘤(拡張静脈)は、肝硬変あるいは肝線維症との合併症として発生します。肝硬変が進むにつれ、血液が肝臓全体に流れるのが妨げられ、食道の静脈が拡張します。これらの拡張した静脈あるいは静脈瘤の初期の形状をチェックし、どの程度大きくなっていくかをモニターすることが欠かせなくなります。およそ4分の1の静脈瘤が出血し始め、それにより10-20%の患者さんが出血から6週間以内に亡くなります。受刑者の肝臓疾患率は高く、これは受刑者がハイリスクな行為に多くかかわっていることに起因すると思われる。

## ギブン・イメージング社について

ギブン・イメージング社は、消化管疾患を発見するための、革新的で患者様に優しい製品を開発、製造、販売することで、消化管の診断に新たな定義をもたらしています。ギブン・イメージング社のテクノロジープラットフォームは、カプセルの中に小さなカメラを装着し、患者様が嚥下する使い捨ての PillCam<sup>®</sup> カプセル内視鏡と、データレコーダ、RAPID<sup>®</sup> ソフトウェアからなります。ギブン・イメージング社では、数種類のカプセル内視鏡を販売しており、アメリカをはじめ 60 カ国以上で発売されており、これまで世界で 75 万以上の患者様が PillCam<sup>®</sup> カプセル内視鏡検査を受診しています。ギブン・イメージング社が販売するカプセル内視鏡には、小腸全体を検査することができる小腸用カプセル内視鏡「PillCam<sup>®</sup> SB」の他、食道用カプセル内視鏡「PillCam<sup>®</sup> ESO」、大腸用カプセル内視鏡「PillCam<sup>®</sup> COLON」、そして PillCam<sup>®</sup>カプセル内視鏡が消化管を通過できるかどうか開通性をみるための「Agile™ Patency カプセル」があります。PillCam<sup>®</sup> COLON は、欧州では CE マークを取得し販売されていますが、アメリカではまだ販売にいたっておりません。ギブン・イメージング社の本社、工場、研究開発施設は、イスラエルのヨクナムにあり、アメリカ、ドイツ、フランス、日本、オーストラリア、シンガポールに子会社があります。

ギブン・イメージング社の大株主は、Elron Electronic Industries (NASDAQ & TASE: ELRN)です。さらに詳しい情報が知りたい方はこちらをご覧ください。 <http://www.givenimaging.com>.

## 今後の見通し

このプレスリリースは、米国の 1995 年民間有価証券訴訟改革法の免責条項内での見通しを含んでいます。これらの見通しは、私たちのビジネス、将来の収益、経費、収益性に関する予測などが含まれますが、これらの予測に限りません。見通しは、「可能性がある」「予期する」「見積もる」「期待する」「意図する」「予定する」「確信する」といった将来を示唆する用語を伴いますが、必ずしもそうでない場合もあります。見通しは、既知および未知のリスクと不確実性および、出来事、結果、業績、状況または企業の達成事項を引き起こす可能性のある他の要因を含みますが、見通しで述べられた将来の出来事、結果、業績、状況または達成事項は著しく異なることがあります。見通しとは異なる出来事、結果、業績、状況と達成を引き起こす要因としては、下記を含みますが、下記に限りません。(1) 新製品を開発し、市場に投入する能力(2)規制当局の認可、弊社製品の販売許可、または規制環境の変化に対応できる当社の能力 (3) 当社の販売、マーケティング、生産計画の成功 (4) 特許および他の知的財産権の保護と有効性 (5) 為替レートの影響 (6) 競合他社の影響 (7) 重大な訴訟結果(8) 私たちの製品に対して政府および商業的保険者から保険収載を得る当社の能力 (9) 四半期の業績の変動 (10) イスラエルにおける武力衝突または市民または軍による騒乱 (11) 米国証券取引委員会に提出され公開されている他のリスクと要因は、Form 20-F で提出した 2007 年 12 月 31 日に終了した年次報告書に掲載されている Risk Factors (リスク要因)、Cautionary Language Regarding Forward Looking Statements (将来の業績に関する見通しの注意事項)、Operating Results and Financial Review and Prospects (営業成績と財務概況と見込み)の表題で記載されていますが、これらに記載されているリスクと要因に限りません。このプレスリリースに含まれる見通しはプレスリリースの日付時点のものであり、過度に信用を置かないようにしてください。関連する証券取引法に基づき重要情報を公開する義務以外は、企業には見通しの変更や、出来事、予期せぬ出来事の発生を公表する義務はありません。

###

注) 日本では、PillCam<sup>®</sup> SB カプセル内視鏡(小腸用)のみ、承認、販売されています。また国により適応が異なっています。

本件に関するお問合せ:

バーソン・マーステラ社(ギブン・イメージング株式会社広報代理店)

平田・福島 電話 03-3264-6713